

秩父地域観光情報共有システムCIRCUIT 実証事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

- ・ 秩父エリアは自然、文化、温泉など多様な観光資源を有し、特に首都圏からの旅行者が多い状況である。
- ・ 繁閑差が大きく特定の時期や場所で混雑が発生しており、データを活用した課題解決が求められている。DMOや行政がAIカメラやアンケート等の観光に関連するデータを取得しているが、データの格納先が分散しており権利も整理されていないため、地域の観光事業者等が需要の平準化や戦略立案、サービス開発に取り組むにあたり、データの活用が難しい状況である。
- ・ 本事業では、データの整備、標準化、オープン化を進めるとともに、ステークホルダーとのワークショップを通じてオープン化したデータの活用方法等を整理し、データ活用の仕組みを構築する。
- ・ 最終的には、地域の観光事業者がデータに基づいた戦略を自律的に立案、実行できるようになり、旅行者満足度の向上と観光による地域経済の活性化を実現する。

事業概要

街中に設置したAIカメラや観光客のアンケート、入込数等のデータを整備し、オープンデータとして公開することで、地域の観光事業者がデータを利用可能な環境を整備する。複数のオープンデータを組み合わせ分析を行うとともに、得られた示唆等を活用して事業者の計画立案や取組の評価等に取り組むことで、観光による稼ぐ力の向上と持続可能な地域経済の実現を目指す。

取組地域： 埼玉県秩父市等

コンソーシアム名： 秩父地域CIRCUIT実証コンソーシアム

代表事業者： 一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社

実証内容

1. AIカメラデータの整備、標準化、オープンデータ化及び混雑状況の可視化による繁閑差の把握
2. アンケート、入込数データの整備及び観光特性の分析を通じたマーケティング支援
3. ワークショップの実施を通じたデータ活用のユースケース創出

目標値

KGI オープンデータプラットフォームを活用して新たに施策に取り組む事業者数(10事業者)

KPI 地域のステークホルダーのデータ活用のワークショップへの参加者数(30人)

成功している地域をベンチマーク ～ 必要なデータ、データ形式（フォーマット、期間、項目等）を定義 ～ これまで収集されてきているデータを目的に沿い、サステナブルな標準化した形でオープンデータ化

